

2014 年 7 月 18 日

発行者: 日本ろう者テニス協会

取材/編集: 尾形スタッフ

- 女子リベンジならず - 第7日目

<一日の流れ>

6時～ 朝食

7時 ホテル出発

7時半～11時 雨天のため待機

11時 テニスコート移動

12時～16時半 試合

19時 ホテル到着

19時～ 夕食、ミーティング

男子イギリス戦、女子インド戦。

しかし、朝から雨模様。現地の人がいなく、ここチャタヌーガで雨が降ることはめずらしいそうです。

テニスコートのクラブハウスで昼近くまで待機後、男子と女子分かれて別の場所のインドアコートへ移動。

男女ともコート4面で本戦から試合スタートで、さらに待機です。女子はその時対戦相手であるインドの棄権を告げられ、7位が確定しました。男子のイギリス戦は勝利なりませんでした、学ぶことは多かったようです。

女子の試合は全て終了してしまいましたが、男子はあとひとつ台湾戦があります。次こそ勝つ！と気持ちを台湾戦に向けて切り替えます。

結果と、選手・コーチのコメントを紹介します。

● 試合結果

[男子] vs イギリス 0勝3敗

シングルス1: ●榛地英征 vs ○Perter 1-6、0-6

シングルス2: ●鈴木裕将 vs ○Nicholas 4-6、1-6

ダブルス: ●都丸直樹 & 榛地英征 vs ○Fletcher & Clifton 2-6、2-6

[女子] vs インド 不戦勝

●コメント

■男子

都丸直樹

今日はイギリス戦のダブルスに参加しました。その前に初めてシングルス2（鈴木君）のベンチコーチを務める事になり、試合の流れや相手の弱みをしっかりチェックして鈴木君に色々アドバイスしました。その結果、鈴木君のプレーは改善出来たのですが、アドバイスの通りに出しすぎた事でミスに繋がり、敗戦してしまいました。アドバイスの細かさが必要だと思いました。

ダブルスは相手が二人ともサウスポーでした。速いスライスサーブで殆どバックを狙われた為、ブレイク出来ず敗戦しました。やはり世界レベルのサーブはどれも速かったので、そのスピードに慣れる事と攻撃的なリターンが出来るようにしなければならないことが一番大きな課題だと思います。また世界レベルはどれ程なのかを認識できたので今後のテニス人生に役に立てたと思います。

明日は未定ですが、7位～8位決定戦があれば最後の試合なので悔いのない試合に臨むよう頑張ります。

榛地英征

今日はイギリス戦でした。シングルス1とダブルスに出場しました。まず課題として挙げられるのは、相手のサーブをブレイク出来ないことです。世界レベルのサーブに慣れる必要があると強く感じました。フォアハンドのラリーではポイントを取れるので、そこは通用することが分かりました。あとはバックハンドスライスの精度を上げて行く事が必要だと思いました。このように、世界と戦うために必要な技術が分かってきたので、日本に帰ってもそれを忘れずにしっかり練習していきたいと思います。

鈴木裕将

今日はイギリス戦でシングルスに出場しました。

対戦相手の実力を比較して勝てると思い込んでしまったせいか自分のプレーがなかなか出来ずに敗戦となりました。

勝ちにいく気持ちを持つことは大事ですが、どうしたら勝てるか？を冷静に考え、相手の弱点を突くプレーや作戦を実行する必要がありました。

明日は台湾とアメリカの勝者と試合の予定です。今日の反省を試合で活かして、悔いのないプレーが出来るように頑張ります！

■女子

豊田恵子

今日は7、8位決定戦でインドと再戦するとのことで、前夜に女子だけのミーティングをして作戦を考えたり、朝起きた時から集中モードに入ったりして念入りに準備をしていました。

しかし、再戦はかないませんでした。インドの棄権で不戦勝になったからです。これで女子は7位となりましたが、最後の試合を勝ちきること、女子みんなで自信をつけたかっただけに、非常にショックです…。

明日は、男子の試合があれば応援をしたり、決勝戦を見たりする予定です。でもコートに空きがあれば他の国の選手と練習や試合をしたいと思います。

龍野由佳

女子チームにとって最後の試合では、不戦勝となりました。相手2人のケガにより棄権をされ…以前の試合に負けたまま終わってしまいました。ケガの理由を聞いてみると、私たちの試合に影響を受けたそうです。それを聞いて、あの時の試合に勝機があったと理解し、改めて悔しく思いました。

そのあとは私の憧れている…ドイツチームのフレッケンスティン・ベレナを観察しました。スピンやスライスを使つての巧みな試合の持ち運びが上手く、丁寧に返球するシコラーでもあります。ムービーも撮ったので、帰国後もこれまでの大会経験を忘れずに、自分のプレイスタイルを切磋琢磨したいと思います。

今大会に出場して、学んだことは世界の”圧倒的な強さ”です。パワーや技術に押されてしまい、残念な結果となったのが悔しいです。この想いを忘れずに更なる目標に立ち向かっていきたいと思います。

尾形滋子

最後の7、8位決定戦の相手はインドです。リーグ戦では接戦の末負けています。

前回の敗戦、そして昨日のドイツ戦の悔しさ。それらをこの最後のインド戦で全てを出し切って勝つ！と女子チームで団結しました。

しかし、インドの棄権によりそれは叶いませんでした。練習では「やり直し」「もう一度」がききますが、試合ではそれは許されない。だからこそ常に全力、全力以上の力を出しきらなければならなかったと思ひ知らされました。

■コーチ 内藤公広

男子

雨のためコート二面進行になってしまいました。

一応両方見るようには心掛けましたがやはり作戦を立てたりアドバイスをするのに時差があったりと、厳しい状況となってしまいました。

榛地はやるべきことは出せていたと思います。ストロークの振り抜き気持ちの入り方ともに良かったと感じました。

鈴木は気持ちで負けました。勝つ事が可能だった相手だと思います。

しかし、それは鈴木選手がやるべきことをしっかりやれた場合に限るわけで、適当にやって勝てるわけではありません。

その心の準備が不足していました。アルゼンチン戦ではそこをクリアしたかと思っていましたがまだまだのようです。

ダブルスは悪くありませんでした。

が、連続してポイントが取れない。良いポイントをとるために3、4ポイントを使ってしまう。要するに安定性の欠けるプレーになってしまいました。

上手くはまってくれたらと思っていましたがそれは叶いませんでした。

女子はインドとの試合、二回目です。
がインドが棄権してしまいました。
女子はリベンジに燃えていたことでしょう。
しかし、大会では一度負けたら終わりなのです。もう一回とか、やり直しはないのです。
リベンジする機会を失ったのは必然かもしれません。
一回目の試合の勝てるチャンスで勝たなければ意味がないということ。
これを肝に命じておかなければならないでしょう。



本日は朝から雨模様



このインドアコートで試合をやりました



イギリスチームと記念撮影